空襲犠牲者への名前読み上げの背景となる千葉市空襲を語る

千葉市空襲と戦争を語る会　伊藤章夫

日本は明治以降、10 年ごとに戦争を続けてきました。
今から、77 年前千葉市に米軍による激しい空襲がありました
1945 年 8 月 10 日と 7 月 7 日の二回の大きな空襲です。
太平洋戦争末期の頃です。
日本は、太平洋で制海権も制空権も失っていました。
特別攻撃隊作戦は若い命を無駄にするだけでした。
日本は戦争を継続する国力もなくなっていました。
本土空襲を遅らせるための沖縄地上戦も無残な敗北です。
まさにこの頃、千葉市空襲がありました。
7 月には連合国から無条件降伏を求めるポツダム宣言を示されました。
日本は降伏するにしても天皇制を維持することが最大の課題でした。
ここでも時間が無駄に流れました。

6 月 10 日の空襲は主として B29 爆撃機による爆弾攻撃でした。爆弾が住宅地に投下されました。朝 8 時過ぎです。
日立航空機工場を目標にした爆撃機 B29 編隊は蘇我、寒川、港町、千葉市街地、（武器の学校工場となっていた）千葉高等女学校、千葉女子師範学校などに爆弾を投下しながら市街中心地に向かいました。
最後に、国鉄鉄道機関区に爆弾が投下されました。
蘇我地区は防空壕の上に爆弾が落ちて、直径 10 メートルの穴ができました。152 人が生き埋めになったり、体がバラバラになって亡くなりました。
一家全滅の被害が多数発生しました。
千葉高等女学校は日曜日に出勤した女生徒二人が梁の下敷きで死亡しました。
向かいの復活教会では神父の二人の子供が犠牲になりました。
千葉病院にいた患者、家族、医師看護師など 40 人が亡くなりました。
千葉病院は戦後解散したので、犠牲の実態は記録されていません。
千葉女子師範学校では、日立航空機の学校工場 3 交代勤務の引継ぎ時間であったから交代する 2 組が犠牲になりました。
防空壕にたどり着けずに 8 人の女生徒が亡くなりました。
鉄道機関区ではレールが飴のように曲がり天に向いていました。
機関区の防空壕に避難した鉄道職員は壕内で死亡しました。
学徒動員生徒も二人犠牲になりました。

7 月 6 日の深夜から 7 月 7 日の早朝にかけて B29 爆撃機による焼夷弾攻撃でした。
千葉市街地は 6 月 10 日の空襲の被災地に再度の空襲で大火災が発生しました。
大火災は旋風となって街を舐めつくしました。街の住人、花屋、青果店、魚屋、寿司屋、幼稚園児童及び職員、児童生徒、主婦、高齢者、身体障碍者、教師、医師、医学生、僧侶、警防団員、警官、軍人、46　言です。私たち会の役員の家族もなくなりました
都川土手に避難した住民に向けて戦闘機が機銃掃射を行いました。
多くは非戦闘員です。無差別攻撃にさらされました。
負傷者、死者はリヤカーや大八車で亥鼻の千葉医科大学に運ばれました。
当時東洋一の病院には負傷者や死者が病院の玄関や廊下まで並べられました。
病院坂は負傷者の体液、血液で坂道が濡れてタイヤが滑ったと言われました。
この病院に対しても戦闘機は機銃掃射を行いました。
当時の千葉市の人口は 10 万人でしたが、多くは今の中央区に居住していました。
千葉市空襲は密度の高い攻撃でした。
死傷者数は 1600 人となっていますが、正確な死者数はわかりません。
戦後、70 年にして市民運動が犠牲者名簿作成・公開、刻銘碑の建設によって死者数約 900 人と推定しています。

もう戦争をしてはいけない。
戦争で命を奪われた人々の声が憲法 9 条になりました。
ロシアのウクライナ侵略に対しても武力で応戦すれば犠牲者が増加します。
国際的争いの解決は、世界の世論を背景に外交的に粘り強く話し合うことです。
この考えは 9 条であり国連憲章です。歴史に学ばなければ本当の平和は実現しません。